

「渋谷・公園通り たばこと塩の博物館物語 ～35年の感謝をこめて～」**2013年7月27日（土）～9月1日（日）****たばこと塩の博物館（東京・渋谷公園通り）で開催****渋谷では最後の展覧会！「タバシオ」の足跡と多彩なコレクションの数々を一挙大公開！**

たばこと塩の博物館（東京・渋谷公園通り）では、2013年7月27日（土）から9月1日（日）まで、「渋谷・公園通り たばこと塩の博物館物語 ～35年の感謝をこめて～」を開催します。

当館は、1978年（昭和53）11月3日に渋谷区神南に誕生して以来、35年間この地でみなさまをお迎えしてきましたが、本年9月2日（月）から休館し、墨田区横川へ移転することになりました。「渋谷・公園通りにある博物館」として最後となる本展覧会では、当館の多彩なコレクションを展示し、設立前からの資料収集の歴史とその特色、そして、たばこと塩の博物館の足跡をご紹介します。

当館のコレクションは、伝統的な喫煙具や、江戸時代の喫煙風俗を描いた浮世絵版画などの絵画・版本類を中核としていますが、そのはじまりは、1932年（昭和7）の大蔵省専売局（当時）による収集事業でした。以来、現在に至るまでに収集した資料は、パッケージ、看板、ポスター、中南米関係資料、外国の喫煙具、ミニチュア、マッチラベル、そして標本をはじめとする塩関係資料など多岐にわたり、その数は実に約4万点に及びます。

本展では、当館の資料収集の歴史とその目的を、時代ごとに5つのコーナーに分けてご紹介します。また、当館設立前に各地で開催されたイベントでの資料公開の様子、そして当館が行ってきた資料収集のウラ話なども交えて紹介、当館の収蔵資料の魅力をぎゅっと詰め込んでお届けします。さらに今回は、事前にお客さまから募集した「私の見たい資料」も会場にちりばめて展示します。渋谷での最後の展覧会は、タバシオからお伝えしたいことに、お客さまの声も織り交ぜ、心をこめてお贈りします。どうぞお見逃しなく。

☆展示構成と展示作品のご紹介 ⇨ 別紙1 ☆コレクション収集ウラ話（トピックス） ⇨ 別紙2
☆展示関連イベント ⇨ 別紙3 ぜひ、ご覧ください！

【開催概要】

名 称 渋谷・公園通り たばこと塩の博物館物語 ～35年の感謝をこめて～
(シブヤ・コウエンドオリ タバコトシオノハクブツカンモノガタリ 35ネンノカンシャヲコメテ)
会 期 2013年7月27日（土）～9月1日（日） 休館日 月曜日
会 場 たばこと塩の博物館 4階特別展示室
開館時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
所 在 地 東京都渋谷区神南 1-16-8（渋谷駅から徒歩10分。公園通り）
入 館 料 大人・大学生 100円（50円） 小・中・高校生 50円（20円）
※（ ）内は20名以上の団体料金 ※満70歳以上は入館料無料（要証明書）

お問い合わせ先：たばこと塩の博物館 広報担当：裊地（ほろち）由美子

E-mail：horochi@tsmuseum.jp <http://www.jti.co.jp/Culture/museum/>

TEL：(03) 3476-2041 FAX：(03) 3476-5692

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-16-8

ご質問、画像データのご希望などございましたら、お気軽に広報担当・裊地までご連絡ください。

■ コーナー1：大蔵省の収集方針 1932～1937 年（昭和 7～12）

1930 年代にスタートしたコレクション収集の全容を名品とともに紹介します！！

Q. なぜ、この時期にたばこ塩の博物館の根幹となる資料が収集されたのでしょうか？

当時専売局長官であった佐々木謙一郎は、やがて廃れていくであろう日本の伝統的なきせる喫煙の文化を何らかの形で残し、後世に伝えていかなければと考え、喫煙具および喫煙風俗が描かれた絵画などの資料収集をスタートさせました。その際、浮世絵の研究者で、収集家としても知られる古堀榮と佐々木が友人であったことが、充実したコレクション形成に大きく寄与しました。ちなみに、当時の日本は不況の時代で、旧大名家をはじめ、名品の所蔵者が「売り立て」を行っていました。資料の海外流出の危機もある一方で、名品、逸品を収集するチャンスでもあったのです。

〈このコーナーで展示する主な資料〉

六大浮世絵師〔鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、東洲斎写楽、歌川広重、葛飾北斎〕及び歌川豊国の浮世絵
紀州徳川家、前田家伝来のたばこ盆など

当時収集した資料の中でも名品とされる資料を一堂に集め紹介



1. 紀州徳川家伝来たばこ盆

昭和初期、紀州徳川家が財政的に困窮し、所有していた数々の名品を売り立て（オークション）に出品した。このたばこ盆はその際に専売局が購入したもの。



2. 当時全盛似顔揃 扇屋内 花扇
喜多川歌麿 画



3. 四代目松本幸四郎の
肴屋五郎兵衛
東洲斎写楽 画

■ コーナー2：戦前のたばこ展覧会 1932～1937 年（昭和 7～12）

当時、数多く行われていた「たばこ展覧会」会場の一角を再現！
その雰囲気味わっていただきながら、名品をご鑑賞いただきます。

Q. 「たばこ展覧会」とは

大蔵省専売局がたばこ小売店組合と共同で、販売の促進とともに、地域（社会）貢献の一環として開催した催しです。当時、地方には美術館・博物館が少なく、展覧会も数多くは開かれなかったこともあり、「たばこ展覧会」は、一級品といわれる美術工芸品を鑑賞するチャンスとして、大変な人気を博しました。逸品、名品が数多く並ぶ会場でしたが、展示手法や場の雰囲気は、現在の博物館や美術館とは異なり、いわば博覧会的なものでした。



4. 昭和 7 年、名古屋での「たばこ展覧会」の様子

■ コーナー3：日本専売公社の設立とたばこ参考資料 1949～1974 年（昭和 24～49）

戦後、専売公社が収集した絵画資料や 1950～1960 年代のデザイン関係資料を展示します。

〈このコーナーで展示する主な資料〉

大原女花見図

レイモンド・ローウィのデザイン作品

5. 大原女花見図

喜多川藤麿 画

歌麿の弟子・藤麿による肉筆画。
肉筆を多く残した藤麿の傑作。
細かい描写に見応えがある。



6. ピース試作品
レイモンド・ローウィ（1951 年頃）

■ コーナー4：たばこと塩の博物館の建設 建設決定時の資料収集
1975～1978 年（昭和 50～53）

1978 年、渋谷・公園通りに誕生した「たばこと塩の博物館」の建設の始まりから完成までを図面や模型、スライドショーで紹介します。また、この時期に収集した資料も展示します。



7. 毛利家伝来 梨子地波に葦蔕絵舟形たばこ盆

■ コーナー5：たばこと塩の博物館の役割 1978 年～現在（昭和 53～平成 25）

開館してから 35 年間で行ってきた資料収集についてご紹介。当館ならではのコレクションを、収集の背景とともに紹介します。また、周年記念で開催した展覧会での成果、当館が果たしてきた役割、これからの課題などにも触れます。そして、墨田区にてリニューアル・オープンする新博物館についても、少しだけご案内します。

〈このコーナーで展示する主な資料〉

ミニチュア、八代目桂文楽たばこ入れコレクション
北米・中南米関係資料



8. 小林磔斎ミニチュア作品



9. 文楽コレクション 更紗たばこ入れ



10. 斧を象った銅製ボウルの
トマホーク型パイプ 北米



11. たばこを吸う神官が描かれた壺
7～11 世紀 マヤ中部地方

みなさまの「声」を展示します！

☆ みなさまから寄せられた「見たい資料」が各コーナーにちりばめられています！

☆ 「35年間に開催した234本の展覧会ポスターをグラフィックで紹介するコーナー」設置！
ここでは、みなさまから寄せられた「好きだった展覧会」の声を反映しています。

☆ 「たばこと塩の博物館の思い出」大公開！

みなさまの声を大公開。会期中、会場にメモ用紙を用意しています。そこにあなたの「タバシオの思い出」を自由に書いてください。書いていただいたメモは会場に貼らせていただきます。どうぞ、みなさまの思い出をお寄せください！

＝同時開催＝

夏休み塩のミニ学習室

2013 年 7 月 27 日（土）～9 月 1 日（日）

会場：1 階エントランスホール



12. 天日塩配布コーナー



13. 世界のいろいろな塩の標本

1978 年の開館以来、34 年間継続して開催してきた「夏休み塩の学習室」。「塩」についてさまざまなアプローチでご紹介する企画で、主対象である小・中学生だけではなく、まさに子どもから大人までご好評いただいた企画でした。今年は、通常の学習室はお休みし、1 階エントランスホールを会場に、ミニバージョンでお届けします。実験に使える「メキシコ天日塩配布コーナー」や、からだの中の塩の量がわかるふしぎな体重計もあります。

「ミニチュア」資料の収集の軌跡

なぜ、ミニチュアが当館の資料に？

「たばこ入れの調査でおつきあいのあった袋物商から、ある日、小林礫斎（こばやしれきさい）という人物と彼のミニチュア作品について話を聞いたんですよ。おもしろい話だと記憶にとどめていたら、その直後、たまたま別の人との話でも礫斎のことが話題にのぼったんです。袋物商が礫斎作品を持っているというので実物を見せてもらうことになったんですけど、礫斎の作品は、本当に小さくて、精密で、実物をそのまま小さくしたものといえるもので、びっくりしました。作品を傍らに、話が進んでいくうちに、存在するはずの礫斎作品群の一部がまとまって見当たらないという話になりました。一体、どうしたのだろうと…。その後、神戸でミニチュアの展覧会が開催されるという情報がありました。そこに出席されたのが、話題にのぼった作品ではないかと調べると、これが当たりだったんです。実は、コレクションの所蔵家が、訳あって資料とともに東京から神戸に移っていたことが分かりました。それで、当館でぜひ展覧会を開催したいとお願いして、ついに展覧会が実現しました。展覧会が終わって、コレクションは一度ご返却しましたが、その後ご寄贈いただくことになりました。素晴らしいコレクションをまとまって受け入れられることは幸せでしたね。そして、その後も数年おきに何回か礫斎の展覧会を開催しましたが、そのたびにほかの血縁の方からも資料をご寄贈いただいて、当館の一大コレクションになったんですよ。すべては、『ご縁』なのでしょう。」

談：岩崎主席学芸員

元々の収蔵資料である「たばこ入れ」に端を発し、当館のコレクションの中でも人気の高い「ミニチュア」のコレクションに結実した話です。岩崎の口からは「縁」という言葉が何度も出ましたが、これはミニチュアだけではなく、当館のすべての資料収集にいえることのようです。開館当時は半田（現学芸部長）、岩崎の2人だった学芸員も8人になりました。当館に在籍する8人の学芸員すべてが人やモノとの縁を大切に活動してきた賜物がこの博物館ともいえるでしょう。

記：裊地

* 半田学芸部長、岩崎主席学芸員は、8/24 にトークショーを行います（別紙参照）



14. 礫斎作品「象牙簞笥」
8.5×5.4×8.4mm

15. 礫斎作品
「桑兎木地蒔絵硯箱」
41.3×29.1×8.1 mm



画像データの用意がございます。ご掲載いただけるようでしたら、画像の番号（1～15）を広報担当までご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

広報担当：裊地（ほろち） 03-3476-2041 e-mail: horochi@tsmuseum.jp

展示関連イベント

【 展示関連トークショー 】 ※当日先着順で整理券を配布します。

8月3日(土) 山下裕二×南伸坊 進行:岩崎均史「たばこと塩の博物館応援団」

※ 日本美術応援団として知られる美術評論家の山下さんと、イラストレーターの南さんのお二人に、今回はたばこと塩の博物館の応援団として、当館の魅力をお話いただきます。

8月24日(土) 半田昌之×岩崎均史「たばこと塩の博物館 35年をふり返って」

※ 開館準備室から共に歩んできたベテラン学芸員2人の深くて濃い(?)話をたっぷり。

※展示関連トークショーはいずれも午後2時から1階視聴覚ホールにて開催。

※参加費無料(ただし入館料は必要です)。

※定員は80名(当日先着順で、開館時より整理券を1名様につき1枚配布します)。

【 企画担当学芸員によるギャラリートーク 】

7月28日(日)、8月25日(日)

※いずれも午後2時から4階特別展示室にて開催。

【 たばこ三部作 上映会 】

「たばこジャポニカ 400年」 (33分)

「明治・たばこ・ラブソディ」 (33分)

「たばこ・昭和史・心の歌」 (45分) ※3本立てで上映

上映日:7月20日(土)、21日(日)、27日(土)、8月4日(日)、31日(土)、9月1日(日)

※いずれも午後2時から1階視聴覚ホールにて上映。

※観覧料無料(ただし、入館料は必要です)。

※定員は、先着80名。